

退職1年目を振り返って

下村 康広

●自分で挑戦「建物登記」・「所有権保存登記」

昨年6月に、我が家の隣接地に長女夫婦が家を新築し、入居しました。基礎的な不動産登記である「建物表題登記」に関しては、多くの人は、不動産登記は司法書士や土地家屋調査士さんに頼むと思いますが、だいたい10万円前後は掛かるようです。インターネットで「自分でする建物表題登記」などを参考にして、申請書を作成し、婿殿の作成した「建物図面・各階平面図」などと合わせて法務局に提出しました。建物の構造の表記の訂正が1回と図面の書き直しが2回くらいで、「建物登記」は無事終了しました。(申請費用0円)「所有権保存登記」は、高知市の「住宅用家屋証明書」を取ることで、

「登録免許税」の減税ができました。(市の建築指導課では「報酬は、もらってないですよね!」と嫌みを言われました。)



趣味悠々

「所有権保存登記」も無事終了した結果、長女夫婦は、この2つの登記で合わせて10数万円の経費が軽減されたことになりました。



●地声・裏声・歌声～歌う筋肉を活用して

昨年の秋から、小津町にある生涯学習健康センター[キラファイ]の教室に通っています。教室名は「ピアノ伴奏で歌う懐メロ発声トレーニング(初級)」です。腹式呼吸で軟口蓋を高く上げて喉に無駄な負担をかけずに、声を高く楽に出して膨らませる歌声をつくるトレーニングを楽しんでいます。

元々声は通るし、それなりに歌っていたのですが、改めて「地声・裏声・歌声」の違いを考えさせられています。腹筋・背筋・表情筋などを鍛えるトレーニングで心身をリフレッシュし、歌って元気にやっています。



●所得税還付請求で「53,641円」の返金

私は退職後は再就職もせず、身体と心のリハビリに努めてきました。収入は、8月から月額94,000円(全教共済)のみでした。

今年1月の県の総務事務センターから送られた退職前1月から3月までの給与の源泉徴収票の文書に「年の途中で退職した方は、確定申告をすることによって源泉徴収された税金が還付される場合があります。」とありました。

「年の途中で退職して再就職していない」場合は、厳密に言えば確定申告ではなく、還付申告となります。還付申告とは、源泉徴収で納めすぎた税金(所得税及び復興特別所得税)を返してもらう申告手続きのことです。還付申告は申告年の翌年1月1日から5年間申告することができるので、確定申告の期限前でも期限後も可能です。

申請様式は、確定申告と同じなので混乱しますが、全く別物です。ということで、国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」の画面の案内に従って金額等を入力しました。

私の場合は、所得としては「給与(退職前1月から3月分)・雑(個人年金)・退職(退職金)があり、控除としては「社会保険料(1月から3月分)の短期掛金と退職後の任意継続掛金」・「生命保険料(新制度と旧制度)がありました。それぞれの証明書の金額を入力すると、自動計算されます。

申告書をプリントし、1月27日に申告しました。訂正もなく、2月24日には、入力計算どおりの53,641円の還付金が口座に振り込まれました。



教員採用特別選考について

高教組委員長 竹島久美

会場で優秀な成績を取った競技者、それらを育成した指導者、スポーツ科学に関する修士又は博士の学位等を有する者等を対象とするいわばスポーツを自己推薦のようなもので、教員免許を有しない者の募集枠もありました。審査の結果、三名が名簿登録となり、岡豊(柔道)、東(レスリング)、須崎(カヌー)に配置されたようです。もう一つは、母語が英語で外国籍を有する者が

英語の講師として任用するというもので、二名が名簿登録となりました。選考審査の内容は、口頭試問を含む二〇分程度の面接と書類審査のみで、通常の選考審査に比べ、あまりにも簡略なものでした。また、募集期間も短く、要項はマスコミにも公表されずホームページに掲載されただけで、広く公募されたとは言いがたく、すでに予定された人物を採用するための審査と言われても仕方ありません。県教委には採用者の経歴等を含め、県民への説明責任が求められます。また、特別選考により採用になった教員の配置や仕事の内容(持ち時間数や初任者研修を含む年次研修など)にも注視する必要があります。

県教委は、二月二五日、この時期としては異例の高等学校教員採用特別選考を行いました。一つは、国際規模の競技大会に日本代表として出場した競技者や全国規模の競技者、それを育成した指導者、スポーツ科学に関する修士又は博士の学位等を有する者等を対象とするいわばスポーツを自己推薦のようなもので、教員免許を有しない者の募集枠もありました。審査の結果、三名が名簿登録となり、岡豊(柔道)、東(レスリング)、須崎(カヌー)に配置されたようです。もう一つは、母語が英語で外国籍を有する者が

ご挨拶

高教組新書記長

竹嶋昇吾

今年度より、書記長として専従となった竹嶋昇吾と申します。原籍校は追手前吾北分校です。10年以上経験した臨時

教組は引き続き、現場の臨時教員が希望を持って働ける臨時教員制度、教員採用制度を求めて運動をすすめます。また、採用教が抑えられる一方、国際バカロレアコースの設置などのためには、人の配置を含め多額の予算をかけています。オリンピック、グローバル・バカロレアといった特別なことに過度にお金をかけるのではなく、各校での地道な取り組みを保障するためにこそ教職員を増員するべきです。

お願ひ致します。は、ずっと組合に支えて頂いていました。専従のお話を頂いた時、浅学非才の我が身に務まるはずがない、と思う一方、私が支える番として恩返しをする時期かもしれないと考え、任に就かせて頂きました。まだ何が分かっていないかさえ分からない状態で日々が過ぎていって、現場や子どもたちの喧騒が少し恋しくも感じられますが、せっかくなの専従生活、様々な経験や出会いを楽しんでいきたいとも思っています。まだまだ自分のおこがましいですが、これまでの高教組運動の財産を受け継ぎ、さらに発展させることのできるよう、全力を尽くす所存です。どうぞご指導・ご鞭撻のほど、よろしく

